

ぐんま経済新聞

(3) 2008年(平成20年)6月5日(木曜日)

ぐんま

チームワーク実習向上へ

群大と受入施設が合同会議

群馬大学医学部保健学科は、今年が10年目となる「チームワーク実習」について、指導教官や実習受け入れ施設の担当者による公開合同会議を

5月30日、前橋商工会議所で開催。約100人が参加し、実習のあり方について熱心に意見交換した。チームワーク実習は保健学科内の多専攻の学生が共同でチームを組み、県内医療・保健施設で行う2日間の実習を軸にして、現場でのチームワークの大切さを学ぶもの。07年度文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に採択され、今年度は新たにシナリオ症例で模擬体験学習を行うほか、医学

科学生も初めて参加することになっている。

冒頭あいさつした高田邦昭医学部長は「チーム医療は現在の医療が抱えるいろいろな問題を解決する1つの方法。地域の施設の方々と交流し、医療レベルを上げていける人材を育成したい」と述べた。

続いて実習担当者の自己紹介と意見発表が行われ、大学側からは「学生が毎年熱心に取り組んでいる」、「実習施設に感謝している」、施設側からは「学生の視点が新鮮」、「日ごろの取り組みを振り返るいい機会」などの声が出された。

一方で、「2日間の短い実習期間で何を教える学んでもらえばいいのか」と施設側の疑問も出され、大学関係者は「チームを組んで現場に行くことで、目的の半分以上は達成している。ふだんの姿をそのまま見せても



大学教員、施設担当者双方から率直な意見が出された

らえればと答えていた。今年度の実習施設は、同大学医学部附属病院と県内の中核病院、健診機関市町村保健センター、訪問看護ステーションなど20施設で今月下旬に実施される。